

【調査の目的】

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
○さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査の概要】

○実施校数 ○実施児童生徒数
小学校(6校)・6年生:299人 中学校(2校)・3年生:197人
○学力に関する調査 ○学習や生活の状況・学校の取組に関する調査、国語・算数/数学・理科 児童/生徒アンケート

【調査結果の取扱い】

○本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないよう各教科別に各領域の正答率をレーダーチャートで記載しています。
○調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげる事が重要と考えます。

学力調査の検証にかかる東員町の教育努力目標

【確かな学力】

○小学校:学んだこと(基礎基本)を生かしながら、仲間とともに新たな課題を乗り越える力を育みます。
・対話力や活用力を生かしながら、課題を克服できる力を育みます。

○中学校:・目標に向かって、計画的・継続的に学習できる力を育みます。

【豊かな心】

○小学校:・仲間とともに学び合うことに喜び感じられる心を育みます。

・困っている子に気づき、相手の立場に立ち、考えられる心を育みます。

○中学校:・自分の将来や生き方について考えられる力を育みます。

・社会の発展に貢献しようとする心や力を育みます。

【健やかな体】

○小学校:・規則正しい生活習慣と、進んで運動したり外遊びをしたりする習慣を身につけます。

○中学校:
・規則正しい生活習慣を確立し、体力をつけようとする力を育みます。

レーダーチャート図の見方:各教科で学習指導要領に示されている領域の正答率をグラフ化したものです。それぞれの領域の正答率が高いほど、グラフの形はバランス良く大きくなる傾向にあります。

○小学校

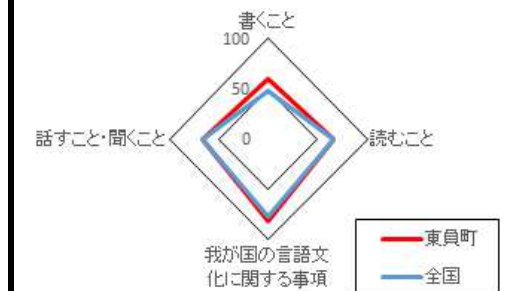
【全体的な傾向と課題について】

3領域ともに全国とほぼ同じ正答率である。「書くこと」の“文章全体の構成や書き表し方などに注目して、文や文章を整える問題”において正答率がやや高く、授業での学びの成果が見られる。

★指導のポイント★

・全国値に比べると高いが、書くことの課題として条件を満たせてない回答が多かった。リーディングスキルの同義文判定に注目し、相手が求めている条件や意味を判断ができる支援や学習を行う。

国語



○小学校

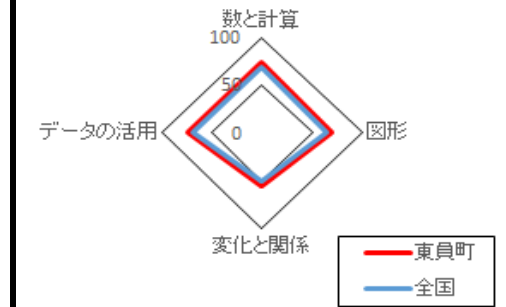
【全体的な傾向と課題について】

4領域で全国平均正答率を上回っている。「変化と関係」における“示された場面において、数量が変わっても割合は変わらないことを問う問題”では、正答率18.8%と課題が見られる。目的に合った数の処理をして、概数を考える問題も課題がある。

★指導のポイント★

・日常の具体的な場面に対応させながら、割合や概数について理解できるようにする。
・言葉や用語の定義を説明する場面を設定する。

算数



○小学校

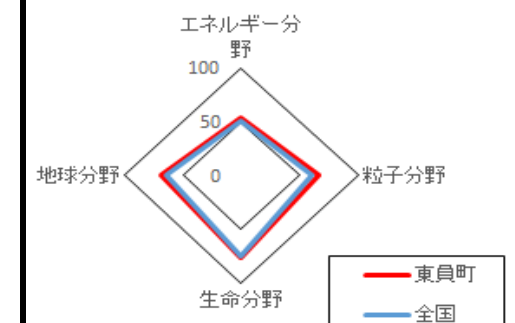
【全体的な傾向と課題について】

4領域で全国平均正答率を上回っている。「エネルギー」における“日光は直進する性質をもとに、知識を相互に関連付けて考える問題”では、正答率28.4%と課題が見られる。

★指導のポイント★

・習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明をする場面を設定する。
・観察や実験において、児童が主体的に問題解決をする場面を設定する。

理科



○中学校

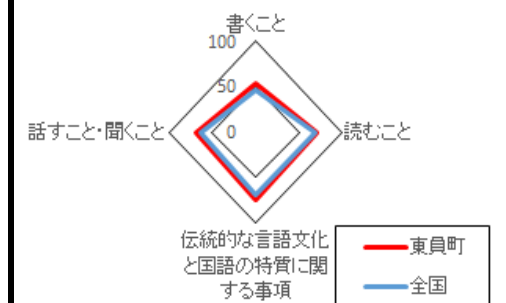
【全体的な傾向と課題について】

4領域ともに正答率が全国を上回っており、小中学校での読解力の向上の成果が表れている。知識に基づき、問題で示された具体的な内容を選ぶ問いでは、半数が用語の意味を間違えて理解しており正答率が低く、課題である。

★指導のポイント★

・知識が言葉だけの理解になっている可能性があるため、具体的な活用場面の設定や知識を説明する機会を設定する。

国語



○中学校

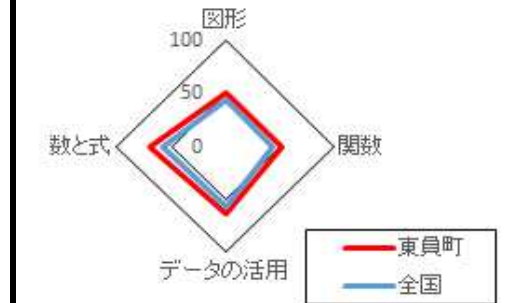
【全体的な傾向と課題について】

4領域ともに正答率が全国を上回っている。特に、数と式では大きく上回っており、小学校での少人数授業の効果が表れている。全国より正答率が高いが、理由を説明する問題では条件を満たせてない点が課題である。

★指導のポイント★

・問題解決のために数学を活用する場面を考え、説明する場面を設定する。

数学



○中学校

【全体的な傾向と課題について】

4領域ともに全国とほぼ同じ正答率である。無回答率は、全国を下回っており、知識の理解度と意欲の高さが表れている。一方で、全国より正答率が高いが、観察結果をもとに判断した理由を説明する問題では条件を満たせてない点が課題である。

★指導のポイント★

・結果を分析し、結論を導くために必要な結果の組み合わせを考える場面を設定し、目的に適した説明ができるようにする。

理科

